

絶 体 絶 命！ なにわの海の時空館は不要なのか？

ふちんかん



表題の通り大阪市港湾局の「なにわの海の時空館」の存続が危ない。

取材の10日前に行われた大阪市の事業仕分けで、「施策・事業の見直し・再構築を進めていくために30事業」のうち、5人の仕分け人のうち4人が「不要（廃止）」を指示、30事業のうち堂々2位で廃止対象に上げられてしまったのだ。

本紙でも6年前の取材でT氏がすでに警鐘を鳴らしている。

(以下囲みは6年前の取材記事より転載)

ただ、気になったのは、日曜の午後にもかかわらず館内がガラガラだったのと、建物がみよーに豪華なことである。ちなみに総事業費は176億円、あの調子なら1日の平均入館者数は100人行くか行かないかだろう。素人目にも大赤字まるわかりである。大丈夫か、大阪市。

今回の事業仕分けによって

- ・収入が支出の1/10
- ・一日平均来館数は300人、うち4割近くが無料入場者
- ・年間維持費として約2億4000万円
- ・教育効果の検証が不十分

など廃止もやむなしと思われる資料が出ている。

ちなみに4年前から管理運営は指定管理者制度によって民間会社に移っている。経費の削減なども目に見えて明らかで、6年前の取材と比べると……



金の問題は大きい

ヨットシミュレータ（1回300円）に藤原ちゃん挑戦。体重を移動したり帆が風を受けたりするとヨットがちゃんと傾く。はじめはコースアウトを繰り返していたがそのうち操作のこつをつかんだか無事ゴール。

突然、どこからともなく可人風情のお兄さんが登場、漫才仕立てで堂島蔵屋敷の説明を始めた。観客数名、それもほとんど誰も聞いてないからってVサインはないでしょう。

慶応回船の操船ゲーム（300円）松本し（右）が帆を、藤原ちゃんが舵を扱い、嵐を抜けライバルより早く江戸に到着するというシナリオだが、2階やって結局江戸に着くことはできなかった。

「ヨットシミュレーター」
無くなっていた。
壊れたか？

「解説員」
人件費削減で廃止のようだが
代わりに
「バーチャル解説員」設置

「操船ゲーム」
画面が無く使用できず
舵は残っていたが、今のまま
では何のための舵か分からず。
撤去するための予算も無い？

無くなっているものだけでなく、追加されているものもいくつかある。しかし、その目玉と思われる大画面航海シミュレーター「**WORLD WINDOW** キャプテンとなって」があまりにもしょぼくてガッカリさせられる。

船のシルエットと各種の情報が書かれたカードが入場証となり、これを持ってグループで入場、質問に答える形で航海を成功させるというものだ。最近よく遊園地にあるインタラクティブなアトラクションっぽく期待できそうなのだが……。中に入ると大画面にアニメ映像が映される。2択の質問に代表者が立つ位置を決めるということが珍しいだけで、質問はたった2つであっさりミッション終了。肩すかしを食ったような感じで、子どもでも「え？これだけ？」と思うであろう内容だ。大人4人で意気揚々と参加したことが逆に恥ずかしいと思えるほどだ。製作途中で予算が急に減額でもされたのだろうか。



〔ノクタール〕

北極星の位置と向きから時刻をはかる実物展示（左）もう少し詳しい解説が欲しいところですが、このコーナーは良いですね。

個人的には好きな博物館である。子どもを連れて2回以上行った博物館はそうそう無い。大阪は港を中心に栄えた都市である。その源となる海運や町並みの歴史を学ぶ意義は大きいと思うのだ。小中学生への学習効果はたいへん高いと思っている。

そこで今後も残して欲しいという思いで提案してみる。

現状、アクセスは最悪で今後も公共の交通機関での客足が伸びるとは思えない。ポートライナー線は乗り換えがあり、しかも駅から近いわけでもない。大阪市としては ATC の周辺が副都心として栄えて、その中に取り込まれるようなイメージがあったのだろうが、未だ周辺は空き地ばかりで開発は進んでいない。開発は時期を待つしかないが、それまでの間は、海遊館や ATC へ向かう車の利用者を引き込むしくみを作ってはどうだろうか。たとえば ATC との間で大規模で安価な駐車場を作るなどして車を引きつける。そこに時空間の案内や野鳥園など含めた散策ルートの案内をするとともに、入館者への駐車料金割引などの制度などで、いままで時空間への動きを作るしくみを提案する。

売却や遺棄を決定する前に、大阪市にはもう一度足搔いていただきたいものだ。

おわり